

2011年7月1日

夕張レポート<第29回>

～夕張市理事を派遣～

総務局人事部では、平成20年から、財政再生団体である北海道夕張市に若手職員を派遣し、地方行政を取り巻く厳しい実情を肌で感じ、現地で地域への支援活動など社会貢献活動を体験してもらう取組を行ってきました。このことにより、地域及び社会に貢献する志向や業務運営に必要な視点を養うことを目指しています。

平成23年4月、元東京都職員で、夕張市派遣の第1期生でもある 鈴木直道さんが、夕張市長に就任しました。その鈴木市長から、着任早々、東京都に対し、幹部職員派遣等の支援要請がありました。

これを受けて、都では、全国でただひとつの財政再生団体での厳しい行財政運営の現場を市長のブレーンとして直接経験することは、夕張市を支援するだけでなく、都幹部職員の人材育成にも大きく役立つと考え、7月1日付けで、交通局電車部清澄乗務管理所長である高島信次さんを夕張市に派遣することとしました。

そこで、今回、派遣を目前にひかえた高島さんにお話を伺いました。

■ 自己紹介

私は、採用が平成8年。現在は、交通局の清澄乗務管理所長を担当しています。1日約80万人のお客様が利用する都営地下鉄大江戸線。当管理所は、大江戸線の全運転士、鉄道事務・運輸業務の職員及び所長を合わせて289名が所属する大きな事業所です。

日々お客様の安全・安心の確保につとめていますが、特にそれを求められたのは、先の3月11日。



高島 信次さん

地震発生後、大江戸線は、いち早く運転を再開し、翌朝まで終夜運行しました。まさに「現場力」を問われた場面として強烈に記憶に残っています。

■夕張市派遣の打診を受けて

夕張市派遣の打診を受けた瞬間は、ただただ「驚いた」。そして、その直後、この重大さ、役割の大きさ、自分で大丈夫なのか、不安、期待、やりがいといった言葉が一度に胸に押し寄せてきました。

ただ、管理職になったのも、より大きな責任を担って仕事に正面から取り組みたいとの思いから。自分に打診してくれたことに感謝し、その場で「行きます」と答えました。

■地域再生なくして財政再建なし

夕張市は、現在、財政再生団体として赤字解消に懸命に取り組んでいます。

しかし、そこには当然、市民の日々の生活があり、将来の展望が必要です。赤字解消は最重要事項の一つですが、それだけが地方自治体の目的ではありません。また、地域再生があって初めて財政再建が可能となるともいえます。

こうした中、先の4月、「元気な夕張」を目指す鈴木直道市長が誕生しました。

■強みと弱み

私は、「若手課長級の職員」として派遣の打診を受けたようです。北海道庁から経験豊富な理事が既に派遣されています。私は、市長のもとで、理事の方とも連携して、どんどん「動く」ことを求められていると感じています。

都庁では、人材育成において、強み・弱みという言葉がよく出てきます。私は、これまで、水道局、議会局、衆議院法制局派遣、知事本局、総務局、交通局と異動してきました。お客様最前線の公営企業、全庁の政策部門である知事本局(自治制度改革推進主査)や総務局(政策法務主査)、あるいは議会局を経験したことは私にとって強みですが、公営企業以外「特定の行政分野を担当したことがない」点は、ある意味弱みかもしれません。

理事としての守備範囲は、市の全ての行政分野、全ての事業に渡ります。夕張市で



夕張市役所

は、市長のもと、「市民(お客様)の声を聞きながら、議会の理解・協力を得て、各事業を効果的に実施し、再生自治体のモデルをつくる」ことに全力で取り組んでいきます。これまでの職歴・経験の全てを生かし、更に新たなことにチャレンジすることにより、強みを生かし、「特定の行政分野を担当したことがない」という弱みも強みに変えていこうと思っています。

■東京都に持ち帰るもの

夕張は、季節が折々美しく、自然豊かと聞いています。また、市民とも近い関係を築けることでしょう。

財政再建は厳しい仕事になると思いますが、こうした環境の中で、都職員では体験できないことを体験し、新たな発想と異なった視点を持って都庁に帰ってきたいと思います。また、市長が目指す「夕張と東京をつなぐ」ことの実現のため、派遣中も東京に戻ってくることもありそうです。そのつど新たな体験を持ち帰ろうと思います。

都庁の職員の皆さんには、ぜひ夕張に関心を持ち、夕張を応援していただくようお願い申し上げます。



映画のロケ地となった観光スポット(夕張市日吉)



夕張のキツネ